

ハチ博士の ミツバチコラム

23



京都大学 園芸学部
環境学
部 教授
坂本文夫

クリの花

6月になると白いしっぽ状のクリの花が見られます。木全体が白くなるくらい沢山の花をつけ、花蜜も豊富なので重要な蜜源植物の一つです。

このしっぽ状の花は雄花で、花蜜と花粉を提供しますが、雌花は雄花の根元の部分に目立たない様に付いていて、実は花蜜を出しません。ミツバチは雄花の花蜜を求めて這い回りますが、せっせと花の間を動き回る途中で体中に付けた花粉が雌花に付くのでしょ。受精した実だけが秋に実り、受精していない実は一しいのままで。私

の勤務地である亀岡でも有名な丹波栗を栽培している家が多く、美味しい丹波栗が立派な実をつけるためにもミツバチの授粉行動が必要なのです。クリの花には芳香成分としてある種のアミンが含まれるために、むせる様な独特の香りがし、その成分が蜜に混じるために苦味を呈します。この香りと味には好き嫌いがあり、イタリアやフランスでは人気がありますが、日本ではそうではなく、クリの花蜜を避けるために開花前に蜜を絞る養蜂家もいます。私もクリの蜂蜜をそのまま食べるのは苦手なのですが、クリの蜜が適量混じった蜂蜜をコーヒー

に混ぜたりチーズと一緒に食べると美味しく感じます。苦味のためか漢方蜜とも呼ばれ、鉄分やカルシウムなどのミネラルやヒタミンも豊富で滋養強壮に良いそうです。

クリの蜂蜜が苦手な人でも丹波栗は問題ありません。栗納豆や栗入りどら焼きは甘党に大人気ですし、大粒の丹波栗がゴロゴロと入った栗ご飯は最高の秋の味覚です。



イラスト おおくぼひとみさん